



学校だより 西北歳時記

長崎市立西北小学校 校長 立本 祐輔

NO. 8 令和5年2月14日 発行

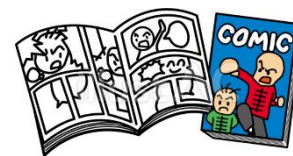


美しい学校

ことばのたしざん



+



3学期の始業式で、子どもたちに話したことを紹介します。

3学期が始まりました。

1月は「行く」2月は「逃げる」3月は「去る」と言われるように、あっという間に過ぎていきます。みなさんが学校に来る日は、今日も入れておよそ50日です。今まで以上に、一日一日を大切に成長してほしいと思います。

さて、今日はお友達と仲よくするための「たし算」のお話をします。たし算というと算数の計算のようですが、お友達と仲良くすることもたし算です。例えば、こんなことはありませんか。「このマンガ面白いね」と言ったら、「全然面白くないよ」と言われて話が終わってしまったとか、「ウサギってかわいいね」と言ったら、「ウサギは嫌い」と言われて話が終わってしまったというようなことはよくあることです。お友達が言ったことに何と答えるかによって、お友達との話が終わってしまうか、楽しく続いていくかが決まってしまうのです。今、お話ししたような話し方は、そこで話が終わってしまうので、たし算とは言えません。

では、何と言ったらよかったのでしょうか。たし算になるような話し方を考えてみましょう。「このマンガ面白いね」とお友達が言ったら、「そうだね。でもこのマンガも面白いよ。」というように、友達の言ったことを「そうだね」とか、「いいね」とかいう言葉で受け止めてから、自分の考えを言うようにすると、話がつながっていきます。このような話し方がたし算の話し方です。周りのお友達の中には、どんなお友達とでも、いつも仲よく楽しく過ごすことができる人がいると思いますが、そういう人はきっとたし算の話し方ができている人だと思います。「ウサギってかわいいね」と言っている人に、「ウサギは嫌い」と言ってしまうのは、相手を不愉快にさせてしまいます。「本当にかわいいね。でも私はちょっと苦手なんだ」と言えば、「どんなところが苦手なの」などと話がつながっていきます。

「そうだね」「いいね」などは、たし算の記号のような言葉です。たし算のお話ができると、相手の気持ちを大事にしなが、自分の気持ちをきちんと伝えることができるので、お友達との関係をよくしていくことができ、結果としてお友達を増やしていくことができます。お友達と仲よくするためのたし算のコツは、「いいね」というたし算の記号を付けてお話しすることです。「こうしたらどうかな」「いいね、こんなやり方もあるよ」「いいね、こんなこともできるかな」「いいね、じゃあはじめはこれでいこう」「それがいいね」・・・どうですか。どんどんアイデアが湧いてきそうな話し合いですね。今日からでも、たし算を意識してお話しするようにしてみましょう。

集団生活を営む上で、言葉によるコミュニケーションは重要になってきます。また、学習の「主体的 対話的で 深い学び」を目指すうえでも大切です。子どもたちが、ことばのたしざんの意識をもって生活できるようになるといいですね。

「学校をもっと良くする5年生の活動」

5年生の子どもたちが、「西北小学校をもっと良くするためには」というテーマで話し合い、次の2つのことに取り組んでいます。

1 元気モリモリあいさつWeek

5年生が、朝7時40分～8時の間に、学校内を「あいさつ運動をしています」と書いている紙を持って歩き回ります。その5年生に対して、全校児童にあいさつを返してもらう取組です。

2 スーパー優しい言葉づかい週間

2月8日(水)～24日(金)の12日間に、各クラスで優しいことばづかいができたか帰りの会のときに振り返ってもらいます。クラスの8割以上が達成できたら、日直が「言葉づかいの木」にシールを貼ります。「言葉づかいの木」は、5年生が配布しています。期間中に、何日目標達成を目指すかはクラスで決めてもらいます。達成できたクラスは、3月の全校朝会で発表します。

次世代リーダーの5年生、高学年としての意識を高め頑張っています。頼もしい限りです。

特別支援教育コーナー



◇通常学級での支援

一人一人を大切に作る学級経営を行います。分かりやすい一斉指導、特性に応じた適切な指導をめざしています。また、チーム・ティーチングによる指導や特別支援教育支援員の配置による支援も行っています。さらに学校全体として、学校と支援関係者との連絡調整等の役割を担う特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を設けたり、個別の教育支援計画を作成したりして支援体制を整える努力をしています。

◇家庭学習への支援～意欲や自信をもたせるために～

お子さんは、家庭学習に進んで取り組むことができますか。学習に何らかの困難さを感じるお子さんには、少し手助けをし、「できた」「分かった」と感じさせたいものです。そうすることで、これからの学習への意欲や自信を保つことができます。

・音読の支援

音読に苦労しているお子さんには、読み仮名を振る支援がよく行われます。また、読む分量を減らしてみると意欲が続くかも知れません。読んでいる行をはっきりさせるためには、定規や紙片を当てながら読む方法があります。言葉の分かれ目が分かりにくいお子さんには、鉛筆で線を引いてあげることで読み間違いを減らすことができます。

・漢字練習の支援

マス目にうまくおさまるように書けない場合は、大きいマス目のノートに変えると楽に書ける場合があります。

お子さんの様子に合わせて、いくつもの支援が考えられます。今回ご紹介したのはそのごく一部です。お困りの場合は、ぜひ担任やコーディネーターにご相談ください。共に方法を考えていきましょう。